

グローバルCOEプログラムレフェリーの選考について (案)

平成 18 年 12 月 20 日
グローバルCOEプログラム委員会決定
一部改正：平成 19 年 12 月 日

1. レフェリーの選考方法

レフェリーの選考の際には、各分野別審査・評価部会委員、大学関係団体（社団法人国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会）及び申請者から推薦のあった者の中から、下記の要件を満たす者を分野別審査・評価部会において、合議により 1 件の申請について日本人研究者等レフェリー 2～3 名、外国人研究者等レフェリー 2 名程度を選考する。

2. レフェリーの選考要件等

レフェリーは、大学の教員並びにその他専門の事項に関し学識経験のある者のうち、次のいずれかの要件に該当し、かつ、国際的な教育研究活動等の実績又は大学改革等に意欲と理解のある者とする。

- (1) 各専門分野における専門家として大学院教育、研究に従事し、高い学問的業績及び識見を有すること
- (2) 大学等の教育研究活動及び運営に関し、豊富な経験と識見を有すること
- (3) 教育学術に広くかつ高い識見を有すること
- (4) 若手研究者の人材育成に関し、豊富な経験と専門的知識を有すること

なお、外国人研究者等レフェリーは、英語が理解できるものとし、日本人であって、現在海外の大学等において研究活動に従事しており、海外の大学等において豊富な職務経験を有する者も含むものとする。

3. レフェリーの選考に際しての留意点

レフェリーの選考に際しては、申請プログラムの内容・分野に応じ、専門的見地から、評価意見を聴くことを前提とし、適切な者を選考することとするが、効率的かつ多様な観点から審査の公正性を確保するため、特に、が行えるよう、以下の点に留意するものとする。

- (1) ~~大学関係者と大学関係者以外の有識者のバランスに留意すること。申請プログラムそれぞれにつき、レフェリーの所属等が偏らないよう留意すること。~~
- (2) ~~大学関係者については、国立、公立、私立のバランスに留意すること。特別の事情がある場合を除き、原則 70 歳以下とする。また、最先端の知見に基づいた審査を行うことができるよう、分野の特性に応じて若手研究者の登用についても考慮すること。~~
- (3) ~~性差、地域性、年齢構成（原則、70 歳以下とする。ただし、特別の事情がある場合は、この限りでない。）のバランスに留意すること。短期間での効率的な審査を実施するため、特定のレフェリーへの負担が過剰にならないよう配慮すること。~~
- ~~(4) 最先端の知見に基づいた審査を行うことができるよう、分野の特性に応じて若手研究者の登用についても考慮すること。~~